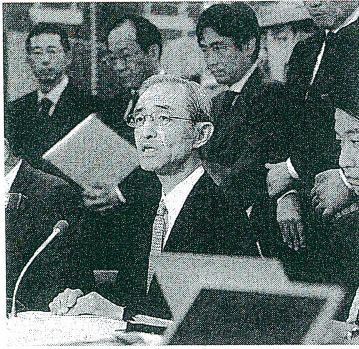


# 中小融資、将来性を重視

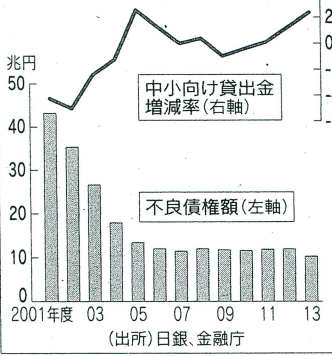


14年3月期は3メガ銀がそろって最高益に(決算発表する三菱UFJフィナンシャル・グループの平野信行社長㊤)

## 大手銀、審査基準を緩和

日銀が量的緩和を始めて1年が過ぎ、銀行は融資は全体で2013年

不良債権は減ったが、中小企業向け融資は伸び悩み



14年3月期は3メガ銀がそろって最高益に(決算発表する三菱UFJフィナンシャル・グループの平野信行社長㊤)

日銀が量的緩和を始めて1年が過ぎ、銀行は融資は全体で2013年

不良債権は減ったが、中小企業向け融資は伸び悩み

日銀が量的緩和を始めて1年が過ぎ、銀行は融資は全体で2013年

大手銀行が中小企業への融資を増やす。三菱東京UFJ銀行やりそな銀行は企業向け融資を認める基準を柔軟にし、業績不振の企業にも貸しやすとした。企業業績の回復で各行とも利益が過去最高水準となり財務が改善したため、これまでの保守的な融資姿勢を改める。積極融資で中小企業の投資が拡大すれば景気を下支える。ただ、銀行は新たな不良債権を抱える可能性もあり、リスク管理体制が問われる。

## 不良債権、98年度以降で最少

銀行の不良債権が現行法による開示が始まった1999年3月期以降で過去最少になった。2014年3月期の全国銀行の不良債権は初の10兆円台まで減少し、ピークだった02年3月末の4分の1以下の水準まで低下した。景気回復で取引先の業績が改善し、融資返済のメドが立

### 前期 全国115行

金融庁のまとめによると、3メガ銀行や地方銀行など全国115行の14年3月期の不良債権は前の期から14%減り、10.2兆円となった。減少は3年ぶり。主要9行は4.0兆円で2割超減少。ピークの01年度に8.7%だった主要行の不良債権比率は足元で1.33%まで低下した。不良債権の額も現行法での開示が始まった98年度以降で最少になった。地方銀行の不良債権は

## 景気回復で業績が改善

6.2兆円で、1割弱減少。不良債権比率は0.35%下がって2.72%となり、いずれも過去最低だった。景気回復により取引先の業績が改善し、集げ付くとみられていた融資に返済の見通しが立ったことが背景。13年9月期のデータでは、同年3月期と比較した「要管理」の不良債権の減少要因約6千億円のうち、4千億円は正常債権への格上げによるものだった。

銀は金利の支払いなどを猶予して不良債権準備軍になっていく「要注意先」の企業でも、事業の将来性などを踏まえて支援する仕組みを導入した。不動産などの担保が不足しているも、売上金など資金の流れが把握できるような企業に対しては新規融資に踏み切る。

企業への融資を増やす取り組みも目立つ。みずほ銀行の審査担当者は4月から、創業間もない企業を実際に訪問するようになった。すでに名刺管理クラウドサービスを手掛ける企業に運転資金を融資した。

もっとも、企業の設備投資など前向きな資金需要の回復は依然として道半ば。企業業績が回復しつつあるなか、新規融資額を返済額が上回る可能性もある。大手銀行の一連の新規融資の掘り起こし策が結果的に中小企業向け融資残高の増加につながるかどうかは不透明な部分もある。